

止の五に云く、「花嚴に云く、心は工なる画師の如く種々の五陰を造る。一切世間の中に心より造らざる
 こと莫し。種々五陰とは前の十法界の五陰の如きなり」と。又云く、「又十種の五陰、一々に各十法を
 具す。謂く如是相・性・体・力・作・因・縁・果・報・本末究竟等」と文。又云く、「夫れ一心に十法界
 を具す。一法界に又十法界を具すれば百法界なり。一界に三十種の世間を具すれば、百法界に即ち三
 種の世間を具す。此の三千、一念の心に在り」と文。弘の五に云く、「故に大師、覚意三昧・觀心食法及
 び誦經法・小止觀等の諸の心觀の文に、但自他等の觀を以て三仮を推せり。並に未だ一念三千具足を
 云わず。乃至觀心論の中に、亦只三十六の問を以て四心を責むれども、亦一念三千に涉らず。唯四念処
 の中に略して觀心の十界を云うのみ。故に止觀に正しく觀法を明かすに至りて、並に三千を以て指南と
 為せり。乃ち是れ終窮究竟の極說なり。故に序の中に說己心中所行法門と云う。良に以有るなり。請
 う尋ね讀まん者、心に異縁無かれ」と。止の五に云く、「此の十重の觀法は横豎に収束し微妙精巧なり。
 初は則ち境の真偽を簡び、中は則ち正助相添い、後は則ち安忍無著なり。意門かに法巧みに、該括周
 備して初心に規矩し、行者を將送して彼の薩雲に到らん初住。闡証の禪師・誦文の法師の能く知る所に
 非ず。蓋し如来積劫の勲求したまえる所、道場の妙悟したまえる所、身子の三請する所、法譬の三說す
 る所、正しく茲に在るに由るか」と。弘の五に云く、「四教の一十六門、乃至八教の一期の始終に遍せ
 り。今皆開顯して束ねて一乘に入れ、遍く諸教を括りて一実に備えり。若し当分をいわば、尚偏教の教
 主の知る所に非ず。況や復世間暗証の者をや○蓋し如来より下は称歎なり。十法既に是れ法花の所乘